

社会の一員として、地球市民の一員として、 私たちは環境先進企業を目指します。

20世紀は経済成長の時代であるとともに、母なる地球が有史以来初めて、その限界に直面しつつあるということに人間が気づいた時代でもありました。温暖化、オゾン層破壊、森林破壊、砂漠化、酸性雨、種の多様性の減退など、地球は現在、様々な警鐘を鳴らしています。これらはすべて、石油をはじめとする地球の恵みを享受し続けてきた人間が招いた現象です。しかし、これらの現象を通じて初めて、人間は、地球に対して切実な視線を持つことができたことも事実です。私たちは、石油という地球の恵みを利用して、産業の発展を支えてきた社会の一員であり、環境に対してネガティブな一面を持つ企業であるという認識のもとに、事業活動のあらゆる面に「環境」という視点を取り入れて革新を図っていきます。また、地球市民の一員であるという認識のもとに、グローバルな環境保全にも貢献していきます。

石油会社として、今、私たちにできること。

現在、日本の社会はエネルギーの50%以上を石油製品でまかなっており、石油エネルギーを中心とした社会構造は、今後も急激に変化することはないと考えられます。そのために、私たちは石油資源の有効利用、つまり原料である原油から、より多くの有用な製品をつくり出すことに、取り組んでいます。当社は、原油を精製し、ガソリン、ジェット燃料、家庭用灯油、軽油、重油など様々な石油製品を製造・販売しています。なかでも重油の使用量が減少しているため、よりハイレベルな精製を行い、重油以外の石油製品の比率を高めています。特に石油業界全体として注力しているのが、ディーゼル車用軽油の硫黄分の低減です。東京都は、2003年10月にディーゼル車の排ガス規制強化を実施する予定ですが、それに対応すべく石油業界は、2002年9月から硫黄分の少ない軽油の部分供給を開始します。この積極的な取り

組みが東京都に評価され、石油連盟は東京都の「環境大賞 知事賞」を受賞しました。また、石油は精製時にもエネルギーを必要とします。石油業界は、原油換算処理量当たりのエネルギー消費量を2010年度までに1990年度比で10%削減するという目標を設定しており、当社は2001年度ですでに9.1%の削減を達成しました。

グローバルな活動で、温暖化防止に貢献します。

環境問題はグローバルな問題であり、なかでも多くの国々で取り組んでいるのが「地球温暖化防止」です。現在、南極やアルプスの氷が溶け出すことなどによって海面が上昇し、南太平洋の島嶼国が水没の危機にさらされています。気候の変動による食糧危機も懸念されています。代表的な温室効果ガスであるCO₂(二酸化炭素)の排出量が増えたことが大きな原因です。

CO₂は、石油を精製する段階でも、お客様がガソリンや軽油を使って自動車を運転するときにも発生します。発生したCO₂は、もう一度、石油に戻すことはできません。私たちは事業活動によって多くのCO₂を排出しているため、グローバルな活動を通じて積極的に地球温暖化防止に貢献していく必要があります。

たとえば、当社の子会社であるアブダビ石油の「ゼロフレア・プロジェクト」は、原油とともに出てくるガスを燃焼させず、もう一度地中に戻すことによって、産油国で発生するCO₂の削減に貢献しています。また、パプアニューギニアでは、森林を焼いて農地をつくり出す焼畑農業から定地型農業への転換を図るための支援を継続的に行っています。さらに、CO₂排出権取引に関しては、当社の温暖化ガス削減目標に対するリスクヘッジ、及び将来的なビジネスとしての可能性を模索するだけでなく、相手国の森林保全・植林の支援という視点で取り組んでいます。



環境先進企業を目指して。

当社は、「環境先進企業」を目指していますが、実態はまだその途上にすぎません。「環境先進企業」という「あるべき姿」を実現するためには「環境保全活動の展開」「従業員の教育・啓発」「社会とのコミュニケーション」が三位一体になって、継続的な改革を図っていく必要があります。そのために、企画部門の中に環境室及び広報室を設置するとともに、従来までの行動計画を見直し、2002～2004年度までの環境中期計画を策定しました。また、VOC(揮発性有機化合物)吸着、排水処理、土壌改善などの環境技術開発の展開や、GTL(Gas To Liquid:天然ガスの液体燃料化技術)燃料電池システムなどの新エネルギー技術の開発も重要な課題です。これらを踏まえ2001年度は、研究開発部門もコスモ石油本体に統合するとともに、「石油本業支援」「環境技術

開発」「新エネルギー」の3つの研究テーマに注力していくことを決定しました。

当社は、社会の一員として、事業活動の実態を開示するとともに、社会からのご意見をうかがうことが重要であるという認識のもと、2001年から環境報告書を発行しています。当報告書では、社会的責任に関する情報開示を充実させるとともに、昨年同様、情報の正確性・透明性を期すために、第三者機関の審査を受けています。私たちの環境保全・社会的責任活動を継続的に改善していくためにも、ぜひご意見をお聞かせください。

コスモ石油株式会社 代表取締役会長兼社長

田部 敬一郎